



パネルディスカッションの様子



5年 岩本 理紗子さん



5年 青柿 和樹さん



北河 修治 学長



神戸市長 久元 喜造 氏



厚生労働省 医薬・生活衛生局
監視指導・麻薬対策課長
磯部 総一郎 氏



東灘保健センター長
片上 祐子 氏



神戸市東灘区薬剤師会 会長
上田 康二 氏



兵庫県薬剤師会 相談役
赤松 路子 氏



「ひまわり」
キラ住吉元気教室リーダー
松原 緋紗子 氏



高尾 宜久 臨床特命教授



東灘区長 綾野 敦雄 氏

地域連携サテライトセンターの開設に伴い、神戸市長、厚生労働省、地域医療従事者、市民、本学学生を交えた「健康サポートシンポジウム」を開催しました。北河学長の開会の挨拶に始まり、久元 喜造神戸市長、磯部 総一郎厚生労働省課長よりご挨拶をいただきました。

高尾 宜久臨床特命教授を座長としたパネルディスカッションでは、「地域連携と健康サポート」をテーマに、磯部氏、地域医療従事者、市民の代表に加え、学生代表が参加。青柿さんは祖母のケアをした経験から、岩本さんは長期実務実習で緩和ケアにかかわったことから、健康サポート薬局*に期待することを述べました。パネリストの皆さんのこれまでの活動や、活動によって見えてきた様々な課題などに、参加者の方も興味津々の様子でした。最後に、綾野 敦雄東灘区長のご挨拶をいただいた後、北河学長による今後の活動予定及び閉会挨拶をもって、盛況のうちに幕を閉じました。

※厚生労働大臣が定める一定基準を満たしている薬局。かかりつけ薬剤師・薬局の機能に加えて、市販薬や健康食品、介護や食事・栄養摂取に関することまで相談できる薬局のこと。

大学認証評価



神戸薬科大学は、公益財団法人大学基準協会による大学評価基準に適合していると認定されています。

6年制薬学教育プログラム評価



神戸薬科大学は、一般社団法人薬学教育評価機構が定める「薬学教育評価 評価基準」に適合していると認定されています。

ききょう通信 2017. 秋号

Kobe Pharmaceutical University Press Vol.165

神戸薬科大学地域連携サテライトセンター 開設

ききょう便り 学長 北河 修治

職業にふれ、自分発見を後押しするインターンシップの取り組み

ききょう祭

研究室探訪 教養・社会薬学系研究室、情報支援室

神薬ごよみ 〈MANABI白書・Event Report・Information〉

大学生活ニュース

研究活動 受賞報告 薬品物理化学研究室 佐野 紘平 講師

「薬剤師」を鍛える 生涯研修支援が充実 エクステンションセンター



地域連携サテライトセンターが 目指すもの

住吉宮町3丁目の校有地(429.65m²)に、9月1日付で2階建ての神戸薬科大学地域連携サテライトセンターが竣工しました。本学は、「大学の理念」の中で「地域の医療と環境問題に目を向けて健康の維持・増進にも貢献できる拠点となること」と定めています。この理念に従い、サテライトセンターで展開する健康サポートセミナーや血管年齢、肌の健康チェック、骨密度等の健康度測定などの活動を通じて、地域社会の健康維持・増進に貢献する所存です。また、活動を通じて化粧品、健康食品、栄養、運動、心理など薬学に関連する領域を取込み、教育研究の幅を広げたいと考えています。一方、がんや認知症の患者を対象に実施するメディカル・カフェ活動や上記の健康サポート活動に学生が参加することで、これまでの薬学教育に欠けていた、地域の中での人材育成に努めたいと思います。さらに、アクセスの良さを生かし生涯教育や産学連携活動にも活用する予定です。「科学的根拠に裏付けされた健康サポート活動」を大学のブランドとすることから、活動で得られた健康、医療に関する課題を大学での研究によって科学的に解決し、地域での健康サポート活動や生涯教育を含めた教育に生かし、大学の3つの役割である教育、研究、社会貢献活動を有機的に連携させながら活動を展開していきたいと考えています。



学長
北河 修治

Vol.165 contents

- | | |
|-------------------------------------|--|
| 1 ききょう便利 学長 北河 修治 | 10 神薬ごよみ (MANABI白書) (Event Report) (Information) |
| 2 特集1 神戸薬科大学地域連携サテライトセンター 開設 | 14 新任教職員紹介
お知らせ 2017学内LAN 更新について |
| 3 特集2 職業にふれ、自分発見を後押しするインターンシップの取り組み | 15 部活動レポート ソフトテニス部 / 美術部 |
| 5 特集3 ききょう祭 | 17 大学生生活ニュース |
| 7 研究室探訪 教養・社会薬学系研究室 / 情報支援室 | 21 研究活動 受賞報告 薬品物理化学研究室 佐野 絏平 講師 |
| 9 大学院充実を推進しています | 22 「薬剤師」を鍛える・エクステンションセンター |

▶ [特集1]

神戸薬科大学 地域連携サテライトセンター 開設

神戸薬科大学地域連携サテライトセンターは、薬科大学・薬学部が果たすべき役割を探求する全国初の施設として大きな注目を集めており、開設を伝えるニュースは、新聞や業界専門紙など、様々なメディアで大きく取り上げられています。本年7月に、神戸市が、民間団体や医療、研究機関とともに、健康寿命の延伸や市民の健康づくり活動などの取組みを進める「健康創造都市KOBE推進会議」を設立しました。本学及びサテライトセンターは、この取組みに携わる医療、介護、福祉といった多様な関係者や、薬剤師及び学生が連携する重要な拠点としても期待されています。

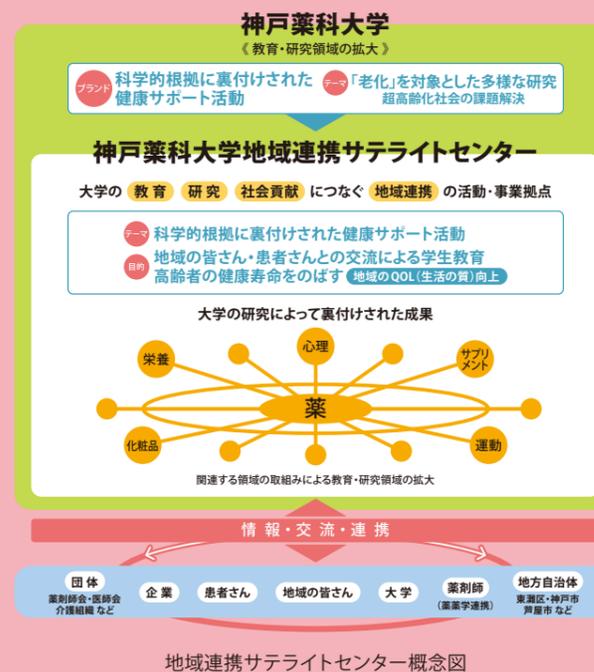
センターの主な取組み

地域の皆さん向け

- ◆ 健康サポートセミナー〔東灘区役所連携事業〕 ◆ 健康度測定〔血管年齢・骨密度・肌年齢 ほか〕
- ◆ 地域健康サポート・カフェ ◆ 喫煙防止・受動喫煙防止活動

薬剤師向け

- ◆ 薬科大学と臨床現場を繋ぐセミナー
- ◆ 健康食品講座 ◆ 薬剤師実践塾



10/30 第5回健康サポートセミナーを開催

「第5回健康サポートセミナー」をサテライトセンターで開催しました。当日は力武 良行教授による講演の後、スポーツジムインストラクターによる簡単な運動などを実施。血管年齢、骨密度、肌年齢等の健康度測定は、本学の学生が計測のお手伝いをしました。

今後もサテライトセンターの取組みは、ホームページで随時紹介します。



座ってできる15分程度の簡単な運動を参加者で実践



力武 良行教授による講演
テーマは「あなたの「血管年齢」は何歳？」



学生が計測のお手伝い



地域連携サテライトセンター
所在地 神戸市東灘区住吉宮町3丁目9-29
最寄り駅 JR住吉駅南へ徒歩約5分

地域連携サテライトセンター 竣工式 2017年9月1日(金)



竣工式



竣工祝賀会
宮武 健次郎理事長による挨拶

2017年9月1日(金)に竣工式を執り行いました。本学関係者や工事関係者の皆様が参列し、当センターが無事完成したことを奉告し、建物の堅牢と末永い繁栄を祈願いたしました。竣工式、竣工祝賀会の後に、「地域連携と健康サポート」をテーマに健康サポートシンポジウムを開催しました。

裏表紙で「健康サポートシンポジウム」の様子を紹介しています

職業にふれ、自分発見を後押しする インターンシップの取組み

4年次に開講する選択科目「キャリアデザイン講座」で知識を広げた後、さらにインターンシップに参加して就業体験をすることは、今後の進路を決定する上でとても大切なことです。インターンシップの参加は、新たな自分の可能性を発見する機会になるはずです。

本学のインターンシップの取組み

◆他大学が追従できない個性豊かな取組み

本学では、2002年度より他大学に先駆けてインターンシップに着目し、組織的な取組みを開始しました。2009年度からは4・5年次生の選択科目として配当し、毎年多くの学生が単位を修得しています。

学生と受入先とのマッチングに工夫を凝らし、「4月のガイダンスから始まり、就業体験を終え、報告会・情報交換会までがインターンシップ」と位置付けられた本学のインターンシップは、多様な業種や職種を誇っており、産業界から高い評価を得ています。また、報告会・情報交換会では、その企画・立案も学生が行い、受入先の方にも多数の出席をいただいています。

特に、本学のためにインターンシップを実施していただく「大学推薦制」は質・量ともに他大学を圧倒する充実ぶりです。



インターンシップ報告会



情報交換会

◆本学の単位制インターンシップは、「大学推薦制」と「公募制」で単位修得が可能

大学推薦制

大学推薦制に賛同する企業が、本学限定の人数枠を設けてくれる特別な制度です。大学を窓口として応募し、志望書と面接により大学で選考を行い、参加者を決定します。実施期間は夏期休暇中です。

公募制

学生が直接企業に応募するタイプのもので、各自が自由に応募し選考を受けます。単位修得要件を満たせば、単位が修得できます。

2018年度から、5年次「病院実習・薬局実習」の期間が大きく変わります。
2018年度より夏期休暇中にも実習が行われることになりました。実習スケジュールによっては、夏期休暇中に実施されるインターンシップに参加することはできません。

4年次で、ぜひインターンシップを経験し視野を広げましょう。
5年次は、「病院実習・薬局実習」期間以外で、積極的にインターンシップに参加しましょう。

主な実施スケジュール 大学推薦制・公募制共通

実施月	単位修得要件	実施内容と目的
4月	インターンシップガイダンスへの参加	単位制インターンシップの説明
	ビジネス・マナー講座への出席	マナーの基本と指導
7月	事前説明会・報告会 打合せ会への出席	直前オリエンテーション
夏期休暇中	3日間以上のインターンシップへの参加	
10月	報告会での発表 情報交換会への出席	プレゼンで経験の再定着 他者、他学年への経験共有 会への参加でコミュニケーション力を強化

今回の日程
単位制インターンシップ
ガイダンス
2018年4月4日(水)
始業日開催予定

インターンシップに参加して



5年 岩間 弓奈さん

キャリアデザイン講座で気づいた薬剤師の職域の広さ。進路をイメージではなく、体験して決めたいと参加!

大学
推薦制

インターンシップ先: 兵庫県庁 健康福祉部 薬務課
職種: 薬剤師(公務員)
参加した学年: 4年次

配属先は2班に分かれており、薬務指導班では、医薬品卸売業者への立入検査の同行や献血推進運動の呼びかけなど幅広い業務を、薬務対策・捜査班では、病院に同行し、麻薬や向精神薬の数量が合っているかを帳簿や麻薬譲渡証を確認しながら行う業務にふれました。法規に関する業務がほとんどで、書類検査や立入検査では緊張感のある現場を体験。県庁を出て県民の方と話すこともあり、多様な仕事にやりがいを感じました。大切なのは受け身にならず、積極的に会話をすることです。事前に業務内容を調べ、担当者の方との会話を増やすことを心がけたことで、多くの学びが得られました。他大学の学生との交流も刺激になり、貴重な体験ができたと感じています。

※2017年度より兵庫県職のインターンシップは「公募制」になりました。



5年 今井 護さん

就職活動に対して高い意識を持つ学生と交流して、モチベーションをアップさせたいと参加!

大学
推薦制

インターンシップ先: ニプロファーマ
職種: 品質管理職
参加した学年: 5年次

インターンシップは、もともと興味があった品質管理職について、もっと詳しく知りたいと考え参加しました。インターンシップには、就職活動に対して高い意識を持つ学生が参加するため、積極的に交流し、自身のモチベーションを上げたいとも思ったからです。就職活動に不安がある人や、なりた職業が見つからない人は、まず、インターンシップから始めることをお勧めします。参加を迷っている人も勇気を出して挑戦してほしいです。参加したことで、学生同士のつながりも持てましたし、何より、社会人として働くには、日々の業務に常に目標を設定し、タイムマネジメントをしながら取り組むことが大切だと学べたことは、とても有意義でした。



5年 山村 真依子さん

キャリアデザイン講座で薬剤師以外にも将来の選択肢があると知り、その幅を広げたいと参加!

大学
推薦制

インターンシップ先: 千寿製薬
職種: 研究職
参加した学年: 5年次

薬が製造、開発される場に興味があることと、企業内での研究が、大学の研究室とどのように異なるのか関心があったことから、製薬会社の研究職のインターンシップに参加しました。研究職という個人作業のイメージがありましたが、グループ内やグループ間で協力されている様子を見て、研究職にはコミュニケーション力も大切だと思いました。また、大学とは違った雰囲気を感じたことで、より研究職への興味がわきました。インターンシップは会社案内やホームページでは知ることができない「現場の空気」を感じ取ることのできる良い機会です。5年次は実習や研究もあり忙しくなるので、皆さんには、時間に余裕がある4年次までに、様々なインターンシップに参加してほしいです。



6年 肥越 ひかるさん

自分を知り、その特性を生かせる分野や企業を見極めたいと参加!

公募制

インターンシップ先: 武田薬品工業・アステラス製薬
第一三共・アストラゼネカ・帝人ほか
職種: MR職 参加した学年: 5年次

悔いのない就職活動をしたいという思いのほか、一つのことに打ち込む良い機会になると考え、複数の製薬会社のインターンシップに参加しました。MRの顧客は主に医師です。そのため中途半端な知識では太刀打ちできません。様々な方に同行して、MRは、6年間学んできた薬学の知識と薬剤師の資格を最大限に生かすことができる面白い職業であると体感しました。いまだにMRが医師を接待する職業だと勘違いしている方がいるかもしれません。誤った知識で将来の道を狭めることのないよう、後輩には、興味を持った職業の本質を自身で確かめてほしいと思います。視野を広くして就職活動に臨んでください。

[特集3]

ききょう祭



2017年10月14日(土)に、大学祭「ききょう祭」を開催しました。今年のテーマは「挑戦」。昨年とは一味違ったききょう祭にしたいとの思いが込められています。雨が降る場面もありましたが、イベントや模擬店などに多くの方にお越しいただき、学生も自分たちで作ったイベントを心から楽しんでいました。いつもは静かなキャンパスですが、この日は終日活気にあふれていました。

薬科大学らしい大学祭に～

ききょう祭実行委員(学生スタッフ)の募集は毎年4月から始まります。今年のスタッフは、新しいことに挑戦したいと、様々なイベントを企画しました。病院を舞台にした「お化け屋敷」や学内を巡る「スタンプラリー」、スマートフォンのアプリを利用したゲームを導入。ききょう祭が地域連携として貢献できるよう、地元の岡本商店街のカフェで利用できるクーポン券も配布しました。さらに、薬科大学らしい大学祭のハイライトとして、献血車を招いたほか、ドラッグストアにご協力いただき、健康測定ブースを充実させました。来場者がアクティブに楽しめることを目的に取組んだ今回のききょう祭に、学生スタッフは大きな手ごたえを感じたようです。



ききょう祭パンフレット



ききょう祭後も利用できる岡本商店街クーポン券



スタッフ募集ポスター



スタンプラリー



ドラッグストアのブース



総勢81名の学生スタッフ。今年はスタッフを倍増して取組みました!

ききょう祭の企画・運営を担って

今までとはまったく違う「ききょう祭」を作りたい、その中心となって活躍したいと思い、委員長に立候補しました。大勢の学生で取組むこの経験が、将来、チーム医療の一員として活躍する上で、とても貴重なものになるとも考えたからです。

イベントの企画は、前例がないことに挑戦するため、みんなで意見を出し合い、多くの視点から一つひとつ考察していきました。新しいことに挑戦する難しさを知る一方で、それ以上に、達成感を得ることができました。私自身は、試行錯誤を繰り返しながら、委員長としての役割を自覚して行動するように努め、失敗しないように入念に計画を立てること、トラブルが起きたときに臨機応変に対応すること、頼みごとをするときの言葉の選び方などを学ぶことができました。

『私たちが企画する「ききょう祭」は、この1回限りで、失敗は許されません。このような重圧の中で、責任を持って取組めたことは、将来、患者さんの命にかかわる薬剤師になったとき、必ず役に立つと思います。』



山口さん(左)と副委員長の吉田健志さん(2年)

ききょう祭実行委員長 2年 山口 悠馬さん

研究室探訪

教養・社会薬学系研究室、情報支援室

神戸薬科大学では研究室に学生が配属され、教員とともに研究に取り組んでいます。研究内容はもちろん、研究室の雰囲気や学生たちが生き生きと学ぶ様子を楽しくお伝えします。今回は、高い教養を身につけるとともに基礎・臨床教育の基本を習得することを目的とした教養・社会薬学系研究室及び情報支援室をご紹介します。



数学研究室
内田 吉昭 教授

英語第二研究室
玉巻 欣子 准教授

人文科学研究室
畑 公也 教授

英語第一研究室
赤井 朋子 准教授

人文科学研究室 畑 公也 教授

20世紀以降の芸術のあり方の変容を研究 音楽の持つ意味、役割を考察

20世紀以降の芸術のあり方の変容について研究しています。リルケ、トラークルなどドイツ抒情(じょじょう)詩の現代性、芸術音楽の調性崩壊と音楽の大衆化、メディアの発達の結果として、今日私たちが直面している「音楽化社会」において音楽の持つ意味、役割について考えています。6年間の教育の中で、自分の頭で「考える」ことのできる学生を養成する、ということを一義として日々教壇に上がっています。併せて、音楽のゼミや講義では、感性の豊かな人に育ってほしいという願いも強く持っています。

英語第二研究室 玉巻 欣子 准教授

言語環境による言語行動変化の研究と 医学・薬学英语教育の研究や教材開発

専門は応用言語学で、海外留学などによって言語環境が変化した際に生じる言語行動の変化を調べています。また、医学英語教育の教授法研究やテキスト開発にも取り組んでおり、効果的な薬学英语教育法の研究と薬学英语テキスト開発のほか、薬の添付文書やプロトコル、薬学英文論文などを効率よく読むための教材開発も進めています。また、英語とは離れますが、患者さんの「語り」を重視した「ナラティブ・アプローチ」という考え方に従った医療行動にも興味を持っており、教養のゼミはそのテーマで実施しています。

英語第一研究室 赤井 朋子 准教授

人物の会話によって成り立つ英国の演劇から 人と人、人と社会とのかかわりを学ぶ

英国の演劇を研究しています。演劇作品は通常、人物の会話によって成り立っています。演劇の上演は、舞台と客席の間に双方向の交流を生み出すことから、英国演劇は、英語や外国文化だけでなく、人と人、人と社会とのかかわりについても、様々な角度から教えてくれます。現在、一世紀ほど前のイギリス演劇と同じ時代の日本演劇と比較する研究に取り組んでいます。当時の日本人が西洋文化の移入に対してどのような態度をとっていたのかという、現在の私たちにも通じる深い問題を、演劇の研究を通して探求できればと思っています。

数学研究室 内田 吉昭 教授

DNAやBSEのプリオンの研究とも関係がある 結び目理論と位相幾何学を研究

結び目理論と位相幾何学について研究しています。結び目理論は「紐(ひも)」の結び方の研究ですが、DNAやBSEのプリオン*の研究とも関係があります。結び目は、結び目の交差点の上下を入れ替えることにより解くことができます。このような操作を結び目解消操作と呼び、現在は、「Δ(デルタ)型結び目解消操作」について研究しています。薬学部に進学する学生はどちらかと言えば数学が苦手ですが、数学はもっと自由で生活の役に立つことを理解できる学生を養成したいと考えています。

*プリオン…タンパク質からなる感染性因子のこと

情報支援室 [スタッフ] 土生 康司 講師 [学生] 4年:3名 5年:2名



「薬剤師らしく情報を評価・活用」して 臨床情報の解析・研究を行う

電子カルテ等からのデータをもとに、医療現場で役立つ情報活用を目指しています。5年次生は、大阪赤十字病院薬剤部の先生方と共に、薬学的管理が必要な患者を拾い上げる処方せん情報を解析するシステム作りや、緩和ケアチームが医療用麻薬をより適正に使用するための処方動向等への影響を解析しています。コンピュータに向かいながらも患者さんを意識し、どう役立つかを考えて研究を進め、コンピュータシステムで、薬剤師の業務全般を改善、発展させる人材になってほしいと願っています。

学生の
意見を尊重し
成長を促して
くださる先生です。



5年
畦地 穂さん

社会科学研究室 [スタッフ] 松家 次朗 教授 [学生] 4年:3名 5年:3名



医療に関する様々な問題や これからの薬剤師の役割を研究

医療に関する様々な問題、医療における、これからの薬剤師の役割などについて研究しています。現在取り組んでいる研究テーマは、「地域包括ケアシステム」「健康サポート薬局」「ファーマシューティカルケアとは何か」などです。研究活動を通して、医療の問題や薬剤師という職能を社会的な視点からも見ることでできる学生を養成したいと思っています。

研究内容を
語り出すと止まない
「ひたむきな先生」
です。



5年
児玉 紘毅さん

医療統計学研究室 [スタッフ] 森脇 健介 講師 [学生] 4年:3名 5年:3名



日本でも政策活用が始まっている 医薬品・医療機器の費用対効果を分析

臨床研究データをもとに統計解析や数理シミュレーションを援用することにより、医薬品の費用対効果を科学的に評価する研究活動を行っています。現在、臨床試験データに基づくシミュレーションにより、悪性腫瘍に対する免疫チェックポイント阻害薬や粒子線治療などの費用対効果評価を行っています。多様な専門分野からなる学際的な教育・研究プログラムを実践し、「薬学のバックグラウンドを持ち、医薬品の費用対効果を評価できる専門人材」を養成したいと考えています。

説明が丁寧な
先生。質問にも
全力で対応して
くださいます。



4年
西内 康子さん

臨床心理学研究室 [スタッフ] 中島 園美 講師 [学生] 4年:3名 5年:3名



医療コミュニケーション力を養成する ための教育プログラム開発と効果研究

薬剤師は、高齢者・認知症高齢者の在宅医療へのかかわりを期待されています。高齢者とのコミュニケーション力を養成する教育プログラム構築を目指して、共感性やコミュニケーション力に関する調査をし、今後の薬学生の高齢者に対するコミュニケーション力養成教育プログラムに必要な課題の探索に取り組んでいます。医療コミュニケーションの専門的知識を備え、薬剤師へのコミュニケーション力養成プログラムなどの企画や実践において、リーダーシップを発揮できる人材の養成を目指しています。

一人ひとりの
個性を大切に、
自信を持たせて
くださる先生です。

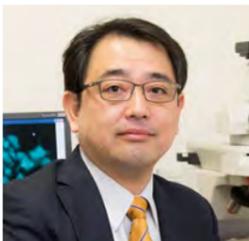


5年
平井 友貴さん

より深く、より高度な学識を備えた プロフェッショナルの養成を目指す 大学院充実を推進しています

神戸薬科大学に4年制の大学院薬学研究科薬学専攻博士課程が設置されてから5年が経過し、二期で11名が博士(薬学)の学位を取得されました。そのうち5名が現在、大学の教員として活躍されていることは特筆すべきことです。科学者として国際的に活躍するには博士の学位は必要条件です。本学では、高度な知識や能力を持った人材をより多く輩出するために、経済的・教育的支援制度の充実を図るなど、大学院の教学環境の整備を推進しています。将来への可能性を広げるためにも本学大学院への進学を進路の一つとして考えてみませんか。

大学院主幹 向高弘



給付型奨学金をはじめとするサポート制度

◆ **RA制度** **リサーチアシスタント** 大学教員の研究補助者として雇用される大学院生のこと。手当を支給し、研究補助業務を通じて若手研究者としての研究遂行能力の育成を図ります。

◆ 奨学金制度

	名称	種別	金額	資格条件	採用期間・採用数
学内	神戸薬科大学大学院奨学生制度 第一種	給付	年間授業料相当額	<ul style="list-style-type: none"> ●1年次: 本学大学院入学試験成績により判定 ●2年次以降: 支給対象年度の前年に実施する総説講演の発表内容により支給を判定 	採用期間: 最短修業年限 毎年更新手続必要 採用数: 博士課程: 原則1学年3名
学外	日本学生支援機構(大学院)第一種	貸与	修士50,000円又は88,000円 博士80,000円又は122,000円 (全て月額)		
	日本学生支援機構(大学院)第二種	貸与	5・8・10・13・15万円より選択 (全て月額)		

修了生メッセージ



高瀬 ひろかさん
北里大学 薬学部 放射性同位元素研究室 助教

薬学研究科 薬学専攻 博士課程 2016年3月修了
在籍講座: 薬品物理化学講座

大学教員になった今、先生方が身をもって示してくださった研究への姿勢や学生との向き合い方は目指すべき手本です

学部での実験や学会発表の経験から、研究によって未知の世界を知る楽しさや、研究成果を多くの方々に伝える喜びを知りました。大学院なら、これまで以上に多くの経験ができると思いましたし、研究テーマについてまだ追求したいという思いもあり、大学院へ進学しました。

大学院では、所属研究室以外の先生方からもご助言をいただいたことは、貴重な経験でした。研究内容に関連のある文献をまとめ、現在の研究内容について学内の先生方へ発表する「総説講演」では、様々な専門分野の先生方から直接ご意見をいただける良い機会となり、新たな視点での見解を教えていただき非常に刺激になりました。

大学の教員になり、先生方が身をもって示してくださった研究への姿勢や学生との向き合い方は、目指すべき手本となっています。これから興味や幅を限定することなく、挑戦する気持ちを忘れずに努力し続けることで、生体機能の解明を目指した独自性のある研究を行う研究者を目指します。また、これまでに学んだ経験を伝えることで、広い視野を持った医療人の育成に少しでも貢献できるよう努めていきます。



伊藤 勇太さん
徳島文理大学 薬学部 放射薬品学教室 助教

薬学研究科 薬学専攻 博士課程 2016年3月修了
在籍講座: 薬品化学講座

奨学金のおかげで金銭面を心配せず研究を突詰められました大学院で学んだ知識や技術を活用して、研究活動を継続中

もともと病院薬剤師を目指していましたが、より深く医薬品を理解するには有機化学の知識が必要と感じ、大学院進学を決めました。また、豊富な知識を持つ先生や先輩方、企業の方から刺激を受け、高いレベルで研究がしたいと思ったことも進学した理由の一つです。

大学院では先生方の熱心なご指導のおかげで有機化学に関する知識や研究遂行能力を身に付けることができました。また、多くの学会やセミナーに参加させていただき、プレゼンテーション能力を磨くこともできました。現在は、大学院で学んだ知識や技術を生かし、有機合成化学を基盤とした研究を行っています。大学院の魅力は、学部とは異なりほぼ全ての時間を研究に費やせることです。神戸薬科大学は、大学院も奨学金制度が充実しているため、金銭面を心配することなく、研究を突詰められました。

将来は、既存の機能を凌駕(りょうが)する核酸医薬材料を合成し、臨床で使用される核酸医薬品の創出に携わることが目標です。そして、核酸有機化学の領域で独自の研究分野を確立し、世界で活躍できる研究者を目指します。

神薬ごよみ

キャンパスカレンダー(学年暦)と併せて、学内の今、そして、これからの取組みを3つのコンテンツでお届けします。

MANABI白書

半期における各学年の学習や
実習報告をお伝えします。

Event Report

半期の主な学内イベントを
ご報告します。

Information

今後の行事を中心に、
学内外のニュースをお伝えします。

MANABI白書

2017年度 前期の学習報告

1年次

薬学入門を学んで

解熱鎮痛薬として有名な「アスピリン」の解説を軸に、薬の歴史に始まり、物理・化学・生物系薬学の観点から、薬がどうして効くのか、そして臨床現場の観点から、薬の適正使用における注意点など、薬学について多角的な視点から学びました。そのため全12回の授業は、北河学長を始め、毎回違う先生方が教えてくださり、とても刺激になりました。これまでは基礎的な科目が中心だったため、薬学部に入った実感がわかかなかったのですが、「薬学入門」で薬物動態や薬理学などに触れたことで、薬学生の自覚が芽生えました。またSGD*で進む授業は、能動的な学習スタイルのため、とてもエネルギーが必要でしたが、一人ではたどり着けなかった答えが見つかる面白さがありました。議論に慣れることは、将来社会に出るときの良い経験になると思いました。

*SGD…Small Group Discussion



1年 松浦 佑介さん

3年次

アイトープ演習を受講して

「アイトープ演習」は、放射線によるヒトへの影響のほか、放射線の化学的、物理的な性質や管理技術などを幅広く学ぶ授業で、第1種放射線取扱主任者の資格取得が目標の一つです。安岡先生の授業は、本試験の問題を考慮した小テストを中心に、佐野先生の授業は、放射線取扱主任者として病院で勤務されていた経験をもとに、最新の薬や治療法など実用的な内容で、ともに興味深く学ぶことができました。放射線で使用する薬は、PET*など診断で使用される検査薬が主ですが、最近では治療薬としても開発されており、放射線の正しい知識を得ることは、薬剤師を目指す上で必要なことだと、授業を通じて実感しました。将来、患者さんに、放射線を用いた薬について説明するときは、授業で学んだことを生かしたいと思います。

*PET…ポジトロン断層法。陽電子検出を利用したコンピューター断層撮影技術。がんを検査する方法の一つ。



3年 佐藤 加奈子さん

Event Report

6月 JUNE

救急救命処置訓練

2017年6月2日(金)、9日(金)に、本学と連携協定を結ぶ神戸市東灘消防署のご協力の下、1年次生が薬剤師として臨床現場で活躍するために必要な心構えの習得と救急救命処置訓練を行いました。
「普通救命コース」ではAEDを利用した応急手当を、「ケガの応急手当」では三角巾を利用した応急手当を学習しました。



AEDを利用した応急手当



三角巾を利用した応急手当

教育改革プログラム 第2回公開報告会

2017年6月10日(土)に、「学長裁量経費に基づく教育改革プログラム」の第2回公開報告会を開催しました。本学では、薬学教育をめぐる環境が大きく変わる中、教育のより一層の充実・発展を目的に、統合教育や学生の能動学修を取入れた、新規の授業改善方を積極的に採用しています。今回は学内公募で採択された10件について報告を行いました。また、その成果をどのように測定するかが重要な課題であるため、「教育のアウトカムを測る～ルーブリック評価とは～」の演題で、薬学教育の分野で活躍されている名城大学薬学部の大津史子先生をお招きし、「神戸薬科大学FD・SD研修会」を兼ねた特別講演会を開催しました。



名城大学薬学部 大津 史子 先生

学内共同研究プログラム第1回公開報告会

2017年6月24日(土)に、「学長裁量経費に基づく老化に関する学内共同研究プログラム」の第1回公開報告会を開催しました。経済産業省所管の独立行政法人や企業、一般の方のほか、学生も参加する中、学内公募で採択された14件について報告を行いました。

7月 JULY

がん哲学外来市民学会 第6回大会

文部科学省 がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)養成プラン 「ゲノム世代高度がん専門医療人の養成」

2017年7月9日(日)、一般社団法人がん哲学外来と共催で、「がん哲学外来市民学会」の第6回大会を開催しました。「役割を果たす」をメインテーマに、基調講演として順天堂大学 病理・腫瘍学教授 樋野 興夫先生より「見据える勇気～『凍として生きるために』～」と題してご講演をいただきました。招待講演として兵庫医科大学 集学的腫瘍外科学 特任教授 笹子 三津留先生より「情報に振り回されないために」という演題で、具体的ながんに関する情報の見分け方をご教示いただき、観覧された皆さんは熱心にメモを取っていらっしゃいました。なお、講演会には全国から305名と、神戸大学附属中等教育学校の1～6年生27名の方に参加いただきました。

8月 AUGUST

夏休み子どもいろいろ体験スクール 地域連携

2017年8月1日(火)、神戸市東灘区との地域連携協定事業の一つとして小学生向けのイベント「夏休み子どもいろいろ体験スクール」を薬学臨床教育センター主催で開催しました。「薬剤師のお仕事を体験してみよう」をテーマに小学校3～6年生69名が調剤や服薬指導など薬剤師業務を体験。学生がサポートに加わり、授業で学んだ知識を生かして子どもたちと触れ合いました。



体験スクールの様子

9月 SEPTEMBER

SP養成事業10年 感謝状贈呈式

本年度は、神戸薬科大学SP(模擬患者)養成講習会が始まって10年目になります。そこで2017年9月12日(火)に、10年間、事前教育(4年次に実施)の服薬指導実習に尽力いただいたSPの方へ、北河学長から感謝状の贈呈を行いました。5年次生の長期実務実習を修了した学生からは、「SPさんとのロールプレー実習がなかったら、実務実習の質が変わっていた」「落ち着いて患者さんに接することができた」との感想がありました。SP参加型実習の教育効果は高く、今後も継続して養成を行う予定です。



感謝状贈呈式

7月 JULY 8月 AUGUST 10月 OCTOBER

オープンキャンパス 〔高校生向け・教員向け〕



相談コーナー



キャンパス見学(研究室見学)

2017年7月29日(土)、30日(日)、8月6日(日)と10月7日(土)に、受験生や保護者の方などを対象にしたオープンキャンパスを開催しました。体験実習や相談コーナー、進学説明会、保護者向け大学紹介など、本学の学びや魅力を伝える様々なプログラムを実施。約1,700名が参加する中、多くの学生がサポーターとして、受付やキャンパス見学の案内役、相談コーナーの対応などでオープンキャンパスを盛り上げてくれました。進学説明会には、卒業生も協力して在学時を振り返った話を織り込みながら、受験生が気になる卒業後の進路に役立つ情報も発信してくれました。7、8月は猛暑、10月はあいにくの雨模様の中での開催になりましたが、大盛況のうちに終えることができました。

また、「高校教員及び予備校担当者向けのオープンキャンパス」は、6月13日(火)、15日(木)に開催しました。

6月	10日	(全学年)TOEIC® L&R IPテスト 教育改革プログラム公開報告会
	18日	(4・5年)大学推薦制インターンシップ 企業面接日
	25日	(4・5年)大学推薦制インターンシップ 応募者の面接
7月	2日	(5年)病院実習・薬局実習終了(i期) (4・5年)単位制インターンシップ参加者 事前説明会・報告会打ち合わせ
	5日	前期終講日
	13日	前期定期試験(～7/25)
	23日	(5年)病院実習・薬局実習終了(1期)
	26日	夏休み休暇
	27日	(5年)第2・3回就職ガイダンス
29・30日	オープンキャンパス	
8月	1日	夏休み子どもいろいろ体験スクール
	6日	オープンキャンパス
	26日	(5年)病院実習・薬局実習報告会(1・i期)
	30日	前期追再試験(～9/7)
9月	1日	地域連携サテライトセンター竣工
	4日	(5年)病院実習・薬局実習開始(II期)
	11～14日	(1年)初期体験臨床実習
	12～14日	(1年)早期体験学習第3施設訪問
	15日	(1年)初期体験臨床実習(全体発表会)
	20日	後期開講日
25日	(5年)病院実習・薬局実習開始(iii期)	
29日	学部秋季卒業式	
10月	7日	オープンキャンパス
	14日	ききょう祭
	21日	(3・4・5年)インターンシップ報告会・情報交換会 桔梗友会秋季役員会
	23日	全学防災避難訓練
11月	4日	桔梗友会総会/保護者懇談会 (5年)就職相談会 保護者のための就職ガイダンス
	8～10日	マサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)来学
	12日	地方保護者懇談会(高松、広島、福岡)
	18日	(全学年)TOEIC® L&R IPテスト
	19日	ホームカミングデー (全学年)キャリアガイダンス
	23日	(5年)病院実習・薬局実習終了(II期) 推薦入学試験

充実した学生生活を送り、自らが主体的に考え行動するクラブ活動は、学年を超え多くの学生との交流を深め、豊かな人間性を身につけることができる場です。「チーム医療」の一員としての自覚を養い、コミュニケーション力を磨くことができる有意義な場でもあります。ほとんどの学生が、勉学に励みながら、クラブ活動にも積極的に参加しています。

ソフトテニス部

メンタルトレーニングを取入れて「関西薬学生六校リーグ」二連覇達成!



ソフトテニス部のエースです 関西薬学生ソフトテニス大会にて



練習風景

活動内容

顧問 江本 憲昭 教授 部員 31名

活動日: 毎週水・金・土曜日、第1・3・5月曜日



部長
3年 門脇 成聖さん

積極的にテニスに打ち込む仲間がいるこちよい雰囲気の中で、テニスはもちろん、学年を超えた様々な交流を楽しんでいます。関西薬学生ソフトテニス大会に準優勝し、昨年は関西薬学生六校リーグに優勝しました。日々の練習に、どのような状況をも恐れないメンタルトレーニングを取入れており、その努力が実を結んだのだと思います。私たちのモットーである「生涯現役」で、これからもテニスを楽しみ続けたいです。

ひとこと

関西薬学生ソフトテニス大会

今回は、2017年8月1日(火)～4日(金)に三重県・伊勢市市宮庭球場で行われました。「暑さや雨に耐えながら頑張りました」

戦績・活動報告

2016年度 11月: 関西薬学生六校リーグ 男子団体優勝、個人ベスト4

2017年度 5月: 四薬戦 男子団体2位

8月: 関西薬学生ソフトテニス大会

男子団体2位、個人ベスト8・ベスト16

女子個人ベスト8・ベスト16

美術部

同じ趣味を持つ仲間が集う憩いの場で、自由な創作活動を楽しんでいます!



ききょう祭にて



神戸の北野工房で、もの作り体験。球体モールドを使い、レジンでストラップを作りました



部長
2年 北村 優実さん

絵や工芸品、手芸品など、何でも自由に創作できるのが部の特徴です。もの作りが好きな人たちが集まっているので、同じ趣味を持つ友人と好きな話をしながら制作をする人もいれば、その話に耳を傾けながら黙々と制作にいそしむ人もいます。のんびりしているようですが、活動を通じて、助け合い精神や協調性が身につきました。ききょう祭で作品を披露するという目標があるため、達成感も得られます。

ひとこと

ききょう祭

今年は2017年10月14日(土)に開催(▶P.5-6)。展示のほか手作りのグッズ販売などで、美術部のブースは来訪者に大人気でした。

戦績・活動報告

学内での活動のほか、前期・後期の1回ずつ、遠足として美術館に行ったり、工房に行き作品を作ったりしています。最近では西宮市大谷記念美術館に行きました。一人では行きづらい「もの作り体験」にみんなで参加できるのも、入部して良かったと思う理由の一つです。

活動内容

顧問 畑 公也 教授 部員 22名

活動日: 週1回程度。自宅で創作活動をしたい学生もいるため自由参加かつ参加申告不要としています。

大学生活ニュース

Career Guidance

2017年7月27日(木)に、5年次生を対象とした第2・3回就職ガイダンスを開催しました。薬学生の多様な進路を知り、学生一人ひとりが自分にふさわしい進路を見つけることができるよう、様々な角度からサポートしています。

第2回就職ガイダンス

自己分析ワークショップ

就職活動における面接の場で必ず聞かれる「自己PR」ですが、まとまりがなく、説得力に欠ける学生がいます。原因の一つとして、「経験の掘り下げ方」に迷いがあり、「自分の強み、弱みは何か?」、「PRポイントはどこか?」が分析できていないことが挙げられます。このワークショップにより、自己を知り、分析する方法を学びました。

面接対策

面接に成功するには何が必要なか。集団面接、個人面接、グループディスカッションなど、面接の種類ごとに特徴や対策、気をつけるべきマナーを学びました。



自己分析ワークショップ

面接対策講座

第3回就職ガイダンス

職種研究セミナー

様々な業界で働いている方々を講師としてお招きし、それぞれの業界や業務内容などについて講演していただきました。

国立研究開発法人 理化学研究所研究員の甲田 泰子氏は、卒業生ならではの親しみやすい話し方で、海外での研究生活や出産など、現在に至るまでのキャリアについて、お話しいただきました。

防衛省自衛隊 阪神病院 一等陸尉(薬剤官)飯村 美央子氏ほか自衛官の皆様からは、自衛隊の概要のほか、自衛隊の中で働く薬剤師(薬剤官)の様々な仕事について、ふだん聴く機会の少ない、貴重なお話を聞くことができました。



国立研究開発法人 理化学研究所 研究員 甲田 泰子氏(本学卒業生)

防衛省自衛隊 阪神病院 一等陸尉(薬剤官) 飯村 美央子氏(右)

就職ガイダンスに参加して

就職活動が本格的に始まる前の備えとして参加しました。特に興味を持った課題は、「経験の棚卸しシート」の作成です。大学生活の経験から導いた「自分が考える自己PRポイント」と、第三者による客観的評価の一致を確認するもので、自分の書いた文書が相手にどのように伝わるのかがわかるため、とても重要だと感じました。また、「自己分析」は、過去の自分と向き合い、見つめ直す、よい機会になりました。友人とも、互いの性格や強み、部活の経験から成長したことなどを、どのように就職活動や社会で生かしていくかを話し合うきっかけにもなりました。面接対策や自己分析は、どのような進路を選択しても生かせるため、就職活動対策として参加をお勧めします。早速インターンシップの選考にも役立ちました。



5年 岩本 理紗子さん

Hot News

International Exchange



キックオフミーティング



ランチョンミーティング



本学教員との特別研究セミナー



実習見学

歓迎会

マサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)との国際交流

2017年11月8日(水)~11月10日(金)の3日間、海外薬学研修の研修先として交流のあるマサチューセッツ薬科健康科学大学(MCPHS)から、教授で、薬学部実践調剤部門部長 兼 多職種連携教育部門副部門長のDr. Michael Carvalhoと、同大学国際学センター部長のMs. Kathleen Headのほか、PharmDコースの6年生2名が来日され、交流プログラムを実施しました。

FD・SD研修会を兼ねた特別研究セミナーでは、Dr. Michael Carvalhoが講師を務め、また、招待した学生がランチョンセミナーでMCPHSの学生生活とボストンの紹介をしてくれました。

「実用薬学英語」での合同授業など、様々なプログラムを通じて本学学生は積極的にコミュニケーションを図っていました。

FD…Faculty Development
教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組の総称

SD…Staff Development
大学の教育・研究支援等にかかわる大学職員が資質向上するための組織的な取組の総称

主な交流プログラム

- 11月8日(水)**
 - 実習見学：「薬理学実習」「薬剤学実習」「細胞生物学実習」
 - 施設見学：11号館、薬用植物園
 - 歓迎会
- 11月9日(木)**
 - ランチョンミーティング
 - 研究室見学：衛生化学研究室、生命有機化学研究室、製剤学研究室
 - 施設見学：NMR(10号館)
 - 特別研究セミナー
 - 懇親会(教員対象・学生対象)
- 11月10日(金)**
 - 合同授業：「実用薬学英語」
 - 病院見学：神戸市立医療センター中央市民病院

Notice

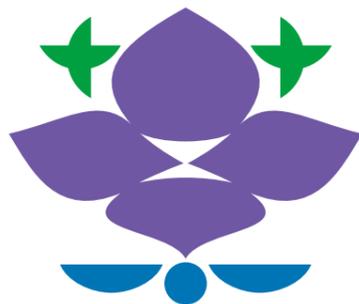
「神戸薬科大学」を広く知ってもらうために コミュニケーションマークを制定しました

広報活動を円滑に推進することを目的とした「コミュニケーションマーク」を制定しました。デザインは、神戸市灘区に事務所を置き、この地域に深いゆかりがある、デザイナーの大元 国敏氏によるものです。

◆ コミュニケーションマーク

「ききょうの花」と漢字の「薬」を組合わせてデザインしました。メインカラーを「桔梗(ききょう)色」とし、草冠のグリーンと脚の「木」のブルーで神戸を象徴する「山と海」を表現しています。

その多くが5枚の花びらである「ききょう」ですが、四つ葉のクローバーのようにまれに「4枚花びら」の「ききょう」が存在します。校章と同じ4枚花びらをモチーフにすることで、学生に「社会の中で余人に代え難い貴重な存在であれ」という思いが込められています。



◆ 大学名ロゴタイプ

コミュニケーションマーク制定の機会に、これまで定められたものがなかった大学名ロゴタイプも制定しました。

和文 神戸薬科大学
欧文 Kobe Pharmaceutical University

◆ 校章

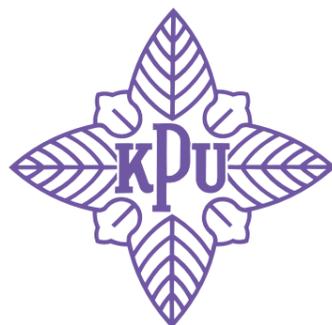
コミュニケーションマークに合わせてメインカラーを「桔梗(ききょう)色」としました。

Column

校章の由来

1937年に、学校のシンボルとして薬草である清楚(せいそ)な花「ききょう」を選び、それとKPF(学校名のドイツ語表記「Kobe Pharmazeutische Fachschule für Frauen」の略)の文字を組合わせて制定しました。

大学に昇格した後もこの校章を使用しましたが、男女共学制を導入した1994年、文字をKPU(学校名の英表記「Kobe Pharmaceutical University」の略)に変更して現在の校章ができました。



コミュニケーションマーク
制定記念品



クリアファイル



トートバッグ



タオルハンカチ

Activity Report

2017年6月～10月 クラブ・サークル活動報告

おめでとうございます



水泳部

第16回西日本コメディカル学生水泳競技大会 2017年8月13日(日) 山口きらら博記念公園(山口市)	男女総合 1位	女子総合 1位	
	5年 森岡 夕稀さん	女子 100mバタフライ 1位	女子 50mバタフライ 1位
	1年 野田 海渡さん	男子 100mバタフライ 1位	男子 200m自由形 1位(大会新)
	6年 崎尾 奈美さん	女子 100m平泳ぎ 1位	女子 50m平泳ぎ 1位

陸上部

第71回関西西薬学生対校陸上競技大会 2017年8月19日(土) 五福公園陸上競技場(富山市)	1年 田中 智哉さん	男子 走幅跳 1位	
	2年 堀内 瑛深莉さん	女子 100mハードル 1位	

バドミントン部

第71回関西西薬学生バドミントン大会 2017年8月9日(水)～15日(火) 岐阜メモリアルセンターで愛ドーム・ふれ愛ドーム(岐阜市)	女子団体戦 1位	3年 高橋 咲恵さん	3年 吉住 晴香さん	3年 森本 万智子さん	1年 田中 美南さん
	女子新人戦 1位	1年 稲場 萌夏さん			

2017年6月～10月 学生の受賞・表彰

おめでとうございます

日本医療薬学会
第1回フレッシュャーズ・カンファランス優秀賞



6年 朴 聡美さん(薬学臨床教育センター)

受賞タイトル……………
「フェンタニル経皮吸収型製剤を半面貼付した場合の貼付面積及び残存率について」

第67回日本薬学会近畿支部大会 優秀ポスター賞



6年 衣笠 真由さん(薬品物理化学研究室)

受賞タイトル……………
「がんの核医学診断を目的とした
コンドロイチン硫酸被覆自己組織化ナノ粒子の開発」



5年 高橋 勝史さん(薬品物理化学研究室)

受賞タイトル……………
「熱応答凝集性ポリマーを母体とする
新規内用放射線治療薬の腫瘍集積性評価」



6年 天野 郁子さん(医薬細胞生物学研究室)

受賞タイトル……………
「芳香族化合物の生産細胞における輸送体発現解析」



6年 種茂 いずみさん(薬品化学研究室)

受賞タイトル……………
「トリクロロメチルシクロプロパンの
遠元的ラジカル開環反応による Permethrin の合成」



6年 川上 智広さん(薬品化学研究室)

受賞タイトル……………
「ケトン類のα-アルコキシ化反応の開発」

研 究 活 動

受賞報告 薬品物理化学研究室 佐野 紘平 講師

このたび、薬品物理化学研究室 佐野 紘平講師が2017年3月27日付で平成29年度日本薬学会において物理系薬学部会奨励賞を受賞しました。

受賞タイトル 「水溶性ポリマーを母体とするがんの診断・治療用プローブの開発」

ポリエチレングリコールに代表される水溶性ポリマー^{*1}は、重合反応を利用した化学合成が可能で、生体適合性が高く、医薬品添加剤や修飾剤として、医薬品の水溶性及び安定性の改善、さらには体内動態を制御する目的で利用されています。しかしながら、水溶性ポリマー自体が、病態診断あるいは治療用薬物キャリア^{*2}として有用であるかについては、ほとんど明らかになっていませんでした。そこで、水溶性ポリマーの体内動態を物理化学的に制御できる可能性に着目して、それを母体とする診断薬の開発研究、さらにその成果を基盤とした治療薬開発への展開研究を進め、がんの診断・治療に有効なプローブ^{*3}を見いだしました。これらの研究成果に対し、平成29年度日本薬学会物理系薬学部会奨励賞を受賞いたしました。



薬品物理化学研究室 佐野 紘平講師

^{*1} ポリマー…低分子化合物が結合してできた高分子化合物 ^{*2} 薬物キャリア…薬を特定の部位に運ぶ分子
^{*3} プローブ…生体内分子などを検出するために用いる物質

受賞内容の一例

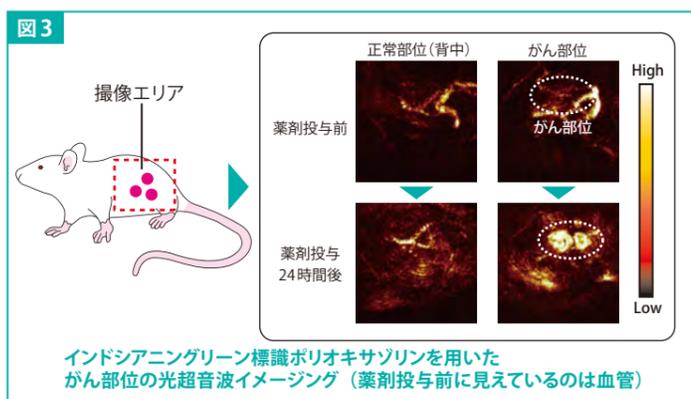
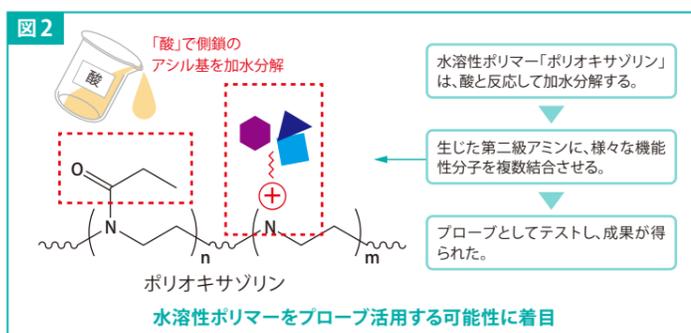
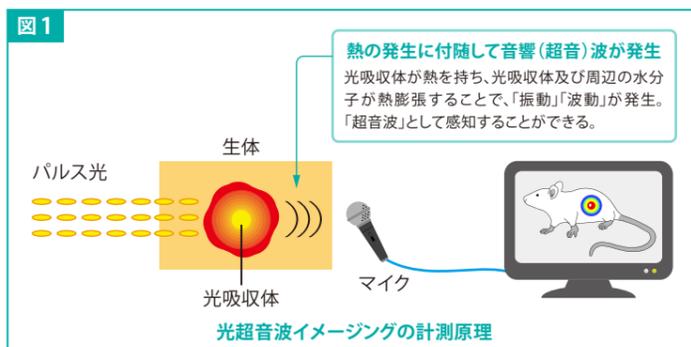
明瞭ながんの「光超音波イメージング」に成功

本研究では、光超音波イメージングを用いて、水溶性ポリマーを母体とするがんの診断薬の開発を行いました。光超音波イメージングは、組織に近赤外パルスレーザー光を照射し、光吸収体が熱膨張を起こす際に発生する音響波を画像化する新しいイメージング技術です。検出する対象が音であることから、蛍光イメージングと比べて、比較的体の深部の信号を検出することができます。〔図1〕

診断用薬物キャリアとしては、水溶性ポリマーの一つである「ポリオキサゾリン」に着目しました。ポリオキサゾリンは、酸により側鎖のアシル基を加水分解することが可能であり、そこに複数の機能性分子を導入することができます。〔図2〕

光超音波シグナル素子であるインドシアニンググリーン(蛍光色素の一つ)を複数導入したプローブを合成し、このプローブが非常に高感度な光超音波シグナルを示すことを見いだしました。さらにポリマーの分子量や加水分解の割合、インドシアニンググリーの導入数をコントロールすることにより、がん部位に選択的な光超音波シグナルの増加を認め、明瞭ながんの光超音波イメージングに成功いたしました。〔図3〕

ポリオキサゾリン及びインドシアニンググリーンは非常に生体適合性の高い化合物であることから、「インドシアニンググリーン標識ポリオキサゾリン」は臨床への応用が期待されています。また、インドシアニンググリーの代わりに、他のイメージング剤や治療薬を導入すれば、複数のイメージング技術を組み合わせたマルチモダリティイメージングが達成でき、さらには治療薬としての利用も可能になると考えられます。今後、ポリオキサゾリン以外の水溶性ポリマーに関しても、物理化学的な特徴をうまく活かしながら、高精度ながんの診断・治療を達成しうる薬剤開発を進めていきたいと考えています。



在学生も卒業生も、薬剤師を徹底サポート

「薬剤師」を鍛える

生涯研修支援が充実 エクステンションセンター

第43回 卒後研修講座(CPD)

2017年5月28日(日)、6月3日(土)・4日(日)

テーマ 「薬剤師に必要な疾患(8疾患)を学ぼう その一 循環器疾患」

エクステンションセンターが実施している生涯研修の中で、メインとなる研修会が「卒後研修講座」です。今年度は、2017年5月28日(日)、6月3日(土)、6月4日(日)に、「薬剤師に必要な疾患(8疾患)を学ぼう その一 循環器疾患」を開催しました。



第43回卒後研修講座

2015年度から新しい「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に基づく薬学教育が始まりました。2019年度には、この改訂モデル・コアカリキュラムに基づく新しい実務実習が開始される予定であり、この中に、実務実習において学ぶべき代表的な8疾患が提示されています。そこで今回は、代表的な8疾患のうち、「その一」として「高血圧」「心疾患」「脳血管障害」の3つの循環器疾患を取上げ、各領域の最前線で活躍されている医師及び薬剤師の先生方からご講演をいただきました。さらにトピックスとして、2つの演題のご講演もいただきました。一つは、2016年度から本学において「血管老化」をテーマとする学内共同研究が開始されていることから、「心血管系の老化と再生」について、もう一つは、「神戸薬科大学地域連携サテライトセンター」〔P.2〕が設置されることから、「地域連携」「在宅医療」についてです。743名の参加者があり、学部学生も受講しました。

次年度も、ほかの疾患を取上げ、「その二」を開催する予定です。

各日の講演タイトル

5月28日(日)

- 虚血性心疾患予防の最新の話 食事から腸内細菌まで
- 薬剤師のための高血圧治療 ガイドラインと最新治療
- トピックス 心血管系の老化と再生

6月3日(土)

- 不整脈診療病態と発生メカニズムを考慮した最新の薬物・非薬物治療
- 疾患を学ぼう 薬剤師に必要な脳血管障害の基礎知識
- トピックス 地域包括ケアにおける薬局薬剤師の役割 在宅チーム医療の実例をふまえて

6月4日(日)

- 脳動脈瘤とくも膜下出血の診断と治療
- 主な循環器疾患に関する薬物ケアの実例 — 薬剤師としてみるべきポイント —
- 心不全の病態と最近の治療

第10回シンポジウム

2017年6月25日(日)

テーマ 「健康サポート薬局について —あれから1年 皆さんの取組みは?—」

今年度のシンポジウムは「健康サポート薬局について —あれから1年 皆さんの取組みは?—」をテーマに、2017年6月25日(日)に開催しました。厚生労働省 医薬品情報室長の紀平 哲也氏を始め、工夫を凝らした健康サポート薬局を推進されている複数の薬局から7名のパネラーを迎えました。

厚生労働省の紀平氏からは、各地域における主体的な取組みや、かかりつけ薬剤師・薬局として患者さんのために能動的にかかわっていくことへの必要性と期待についてご講演いただきました。各薬局からは、健康サポート薬局として、地域とかわる工夫をしながら、患者さんと医療機関との橋渡しの役割も担っていることなど、実例をもとに発表がありました。また、パネルディスカッションでは、一般市民に対する啓発活動を行政とどのように連携できるか、健康サポート薬局の高評価例と課題など、問題点も含めて活発な意見交換を行うことができました。



第10回シンポジウム